

山行報告書

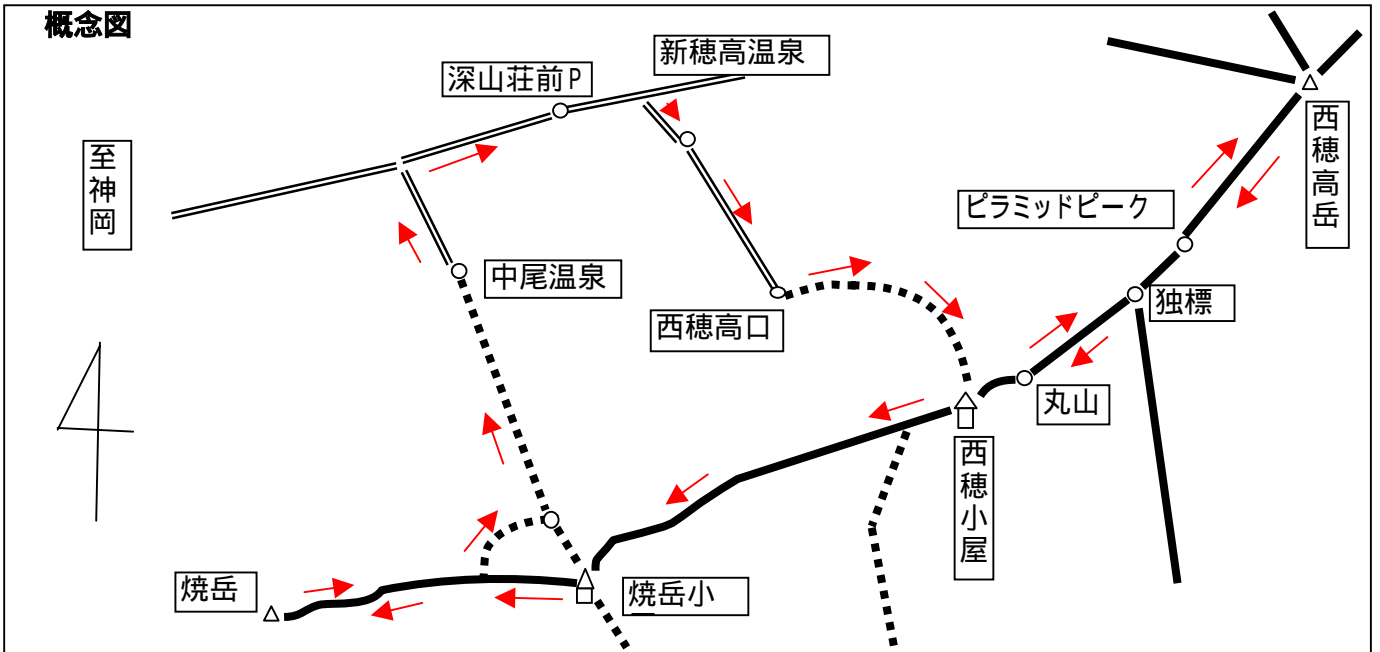
報告書作成

2005年9月26日

山名 [山域]	北アルプス 西穂高岳～焼岳	目的と方法	初秋の北アルプスを歩く
登山期間	2005年9月17日～18日	山行形態	テント泊周回(前夜発)
参加人数	3人		

行動記録 9月16日(金)岩津市民センター20:00発 === R41 === 高山 === 新穂高温泉無料P0:40着
 9月17日(土)起床6:00 7:00発---新穂高ロープウェイ7:15着 8:20発////西穂高口8:45着 9:00発----西穂山荘10:05着 10:40発----独標11:40----西穂高岳 12:55着 13:30発----独標14:30着---西穂山荘15:25着
 (テント泊) 9月18日(日)起床3:30 5:25発----焼岳・上高地分岐5:35---焼岳小屋7:35着----焼岳展望台9:00着----焼岳 10:05着 10:20発-----中尾峠11:15着 昼食 11:40発----白水の滝13:00着----焼岳登山口13:35着-----中尾温泉バス停14:05着(足湯)15:20発=== 深山荘前15:40着---駐車場15:45着=== 16:00~17:00=== 平湯峠(夕食)17:30~18:00=== 高山=== 岡崎22:30着

概念図



日誌

16日深夜 駐車場に着くとすでに満杯状態でやっと1台分のスペースを見つけて駐車。後から続々と車が入ってくるが、止める場所が無い。女二人は車の中に寝て、男性は隅っこにテントを張る。夜中だったので、トイレの場所がわからずMちゃんは早朝新穂高バス停前まで行ったが、すぐ近くに仮設トイレがあった。臨時便が出るかもしれないと思い早めにロープウェイ乗り場に行くが、すでに30人ほどが並んでいる。第2便に乗れて8:45西穂高口に着く。よく晴れていて北アルプスは最高の眺め。山荘にはあっけなく着き、さっそくテントを張り西穂に向う。この時点では他に2張のみ。丸山を越え独標までは快適な尾根歩きだが、その後はなかなか手強い岩稜帯となり、西穂もガスの中に入ってしまう。やれやれ山頂に立って一服。8月には反対側から登ってきたと思うと、感慨もひとしお。Mちゃんは、こういう山がお嫌いらしく、もっと癒し系の山が良いと言うので、来年はそっち系の山に御供しますからとなだめてテント場に置いてビックリ！テントの花盛り。今までこんなにテントがあるのを見たことが無い。先に張っておいてよかった。今回は新人のYさんの初山行でお月見と思ったが、残念ながら雲が厚く、月はときたまひょいと顔を出すのみ。18日は行程が長いので3時半起床5時出発の予定が、わたしのヘッドランプが壊れてしまい、明るくなるのを待って30分遅れで5時半出発。昨日と違って変わって樹林帯の中を歩く。やっぱりこっちのほうが落ち着くかな。しかし、この道はあまり歩かれておらず、また崩壊しているところもあり、思いがけず手こずる。焼岳小屋の緑の屋根が見えると、急激に下り、7:35小屋着。小休止の後一山越えて中尾峠に荷物を置き焼岳への一直線の登りに掛かるが、下りが気掛かりなほどのザレた登りで、所々から硫黄臭のする蒸気が出ている。ぐっと左手に回り込み中の湯方面からの道と合流すると、岩を黄色に染めて硫黄が噴出している。そのすぐ横を登山者が平気な顔で登っている、不思議な光景。その噴出口のすぐ上が頂上で、大勢の登山者で賑わっているがなんだか座っていても落ち着かない。早々と下りに掛かるが、登り下りのすれ違いが大変な程の混雑、紅葉にはまだ早い今週がこれでは、来週再来週あたりは推して知るべし、「は～あ」とため息付いて、中尾峠で昼食。ここからが私の歩きたかった中尾峠越えの旧道だ。盆、正月には神岡から松本の方へ嫁に行ったり、働きに出た女の人が「徳本峠～中尾峠」と越えて在所へ帰ったという道。豊臣秀吉軍に追われた三木秀綱が果てた道。奥方も徳本峠を越えたところで、土民に捕まり非業な最後となってしまった。その道は以前辿り、次はここの思いが叶った。まだまだ残暑厳しく、白水の滝まで来て小休止していると団体さんに追い抜かれそうになったので、慌てて出発。やっと中尾温泉バス停に着き、足湯に浸りバスを待つ。